



資料紹介です。郷土資料館がリニューアルをして二年目になり、館内の展示の様様替えを進めています。特に市に保存されている考古資料をみなさんに見ていただく機会をつくろうと考えています。

今回は、新しく設置したガラスケースに展示した東禅寺中世墓に関する資料です。藤原町東禅寺の名前は平安時代に建てられた「東禅寺」に由来しています。七堂伽藍の大寺院であったとか、何度も兵火で焼かれたとかの伝承はありますが、正確な位置や規模など、詳細は不明です。

東禅寺があったと思われる丘陵は寺山といい、周辺には五輪塔の石や古瀬戸や常滑焼の破片が見つかっています。昭和40年代に、その北斜面から鎌倉時代に瀬戸で焼かれた壺（瓶子・四耳壺）や常滑焼の壺がまとまって掘り出されました。壺の口の部分が欠いているものも多く、骨片が残っていたものもあります。これらは火葬した骨を入れる蔵骨器として利用されたものと思われます。生前に大切にされていたのでしょうか。いずれの壺も美術的にも価値のある焼物です。ぜひご鑑賞ください。



小幡でこ

滋賀県五家荘小幡町の郷土玩具です。この二つの人形は、「立天神」と「座天神」で、天神様とは菅原道真をあらわし、五月の節句に飾られます。

